

大阪・関西万博日本館(仮称)設計業務

設計者特定結果

令和3年11月

国土交通省

近畿地方整備局

目次

1. 業務概要	・・・3
2. 設計者の特定手続き	・・・3
3. 特定までの経緯	・・・4
4. 技術提案書提出者の選定	・・・4
5. 技術提案書の特定(設計者の特定)	・・・5
6. 講評	・・・6

<参考> 「大阪・関西万博日本館(仮称)設計業務に関する技術提案書評価委員会」の
議事概要

1. 業務概要

(1) 業務名

大阪・関西万博日本館(仮称)設計業務(以下「本業務」という。)

(2) 履行期間

2021年11月～2022年11月

(3) 業務内容

大阪・関西万博日本館(仮称)の新築及び外構、取りこわしの設計

2. 設計者の特定手続き

(1) 設計者の特定方式

公募型プロポーザル方式により設計者を特定した。

(2) 設計者の選定体制

本業務の設計者の特定手続きは、より一層の客観性が求められるため、外部有識者を含む「大阪・関西万博日本館(仮称)設計業務に関する技術提案書評価委員会」(以下「技術提案書評価委員会」という。)を設置して、技術提案書の評価等を行った。

(3) 技術提案書評価委員会の構成

<委員長>	古谷 誠章	早稲田大学理工学術院建築学科教授
<委員>	末包 伸吾	神戸大学大学院工学研究科教授
<委員>	佐藤 オオキ	経済産業省商務・サービスグループ博覧会推進室 国際博覧会政府出展事業推進専門官
<委員>	村上 幸司	国土交通省近畿地方整備局営繕部長
<委員>	薄田 球一	国土交通省近畿地方整備局営繕部整備課長

3. 特定までの経緯

設計者の特定までの主な経緯は、次のとおりである。

- ・ 第1回技術提案書評価委員会 令和3年6月22日(火)
- ・ 手続開始の公示 令和3年7月9日(金)
- ・ 参加表明書の提出 ～令和3年7月26日(月)
- ・ 技術提案書の提出者の選定 令和3年8月6日(金)
- ・ 技術提案書の提出 ～令和3年10月1日(金)
- ・ 第2回技術提案書評価委員会 令和3年10月5日(火)
(技術提案書を提出した者に対するヒアリングの実施)
- ・ 第3回技術提案書評価委員会 令和3年10月7日(木)
- ・ 技術提案書の特定(設計者の特定) 令和3年10月22日(金)

4. 技術提案書提出者の選定

(1) 技術提案書提出者の選定の概要

公募型プロポーザル方式においては、技術提案書の提出者に要求される要件及び技術提案書の提出者を選定するための基準に基づき、参加表明書を提出した者の審査を行い、技術提案書の提出者を選定する。

本業務においては、6者から参加表明書が提出され審査を行った。技術提案書の提出者に要求される要件を満たしていない2者を除き、4者を技術提案書の提出者に選定した。

(2) 技術提案書の提出者

- ・ 黒川紀章・織本・建築設備設計共同体
- ・ (株)佐藤総合計画
- ・ 大建設計・隈研吾建築都市設計事務所設計共同体
- ・ (株)日建設計

(注)五十音順に記載しており、5(2)及び6(2)の記載順とは一致しない。

(注)設計共同体名に付く「大阪・関西万博日本館(仮称)設計業務」は省略している。

5. 技術提案書の特定(設計者の特定)

(1) 技術提案書の特定(設計者の特定)の概要

技術提案書評価委員会は、技術提案書の提出者のヒアリングを行ったうえで、技術提案書を特定するための基準に基づき、技術提案書を評価した。

国土交通省近畿地方整備局は、技術提案書評価委員会から評価結果の報告を受け、業務の実施方針及び手法が他者より優れ、総合的に最も高い評価を得た(株)日建設計の技術提案書を特定した((株)日建設計を設計者に特定した)。

(2) 得点

提出者	資格・技術力	業務の実施方針 及び手法	合計
提出者Ⅰ <(株)日建設計>	22.80	63.00	85.80
提出者Ⅱ	18.46	53.60	72.06
提出者Ⅲ	23.60	45.00	68.60
提出者Ⅳ	15.24	35.00	50.24

(注) 合計得点順に記載しており、4(2)の記載順とは一致しない。

6. 講評

(1) 総評

本業務は、2025年に開催される日本国際博覧会(大阪・関西万博)の日本政府館(日本館)の新築に係る設計を行うものである。

業務内容を踏まえ、次の3つのテーマを設定して技術提案を求め、資格、技術力及び業務の実施方針と合わせて評価を行った。

① 日本館基本構想をカタチにする考え

日本館のテーマ「いのちと、いのちの、あいだに」に沿い、様々な「循環」を通して、来場者に未来社会のつくり手として行動変容を促す展示を活かす場を目指し、空間・時間を越えた人と人との繋がり、建築とデジタル空間、来場者と空間の呼応など、インタラクションを通して、展示と建築の融合による来場者体験を創出する場とするために、設計上特に配慮する事項

② 仮設建築物としての環境配慮

SDGs、カーボンニュートラルに代表される地球規模の社会的課題の解決・達成が求められる状況を踏まえた上で、日本館の資材調達から運用・解体までの一連のサイクルにおいて、高密度な3R(リデュース、リユース、リサイクル)を実現していくために、設計上特に配慮する事項

③ 設計と条件に対する柔軟性

日本館総合プロデューサー、万博関係者(展示業務関係者含む)及び来場者などの、多種多様な関係者との協働により、本プロジェクトを進めていく必要があることを踏まえた上で、今後決定される展示計画と建築設計の整合を図るために、設計上特に配慮する事項

技術提案書を提出した4者は、いずれも十分な資格と技術力を有しているとともに、それぞれのノウハウを生かして優れた提案を行った。限られた期間でこれほどの提案を行った4者の技術力を高く評価するとともに、その熱意に多大なる敬意を表する。

(2) 個別講評

(注1) 合計得点順に記載しており、4(2)の記載順とは一致しない。

(注2) 各提出者の提案について、委員長を含む個々の委員が評価できるとした意見を、列記したものである。

(注3) 評価できるとした意見が複数の委員において重複した場合は集約して記載した。

① 提出者 I <(株)日建設計>

ア 業務の理解度及び取り組み意欲、並びに業務の実施方針

- ・ 本プロジェクトを推進する上での手続きに対する理解度、高い取組意欲が評価できる。
- ・ 段階別に各種資料を作成してのスケジュール管理やフェーズ毎の予算管理による品質確保の取組が評価できる。
- ・ 様々な技術者やデジタルデザイン担当で編成された体制に説得力があり、前向きで柔軟な質疑応答からも建設的なプロジェクトの進行が期待できることが評価できる。
- ・ 様々なプロジェクトで積み重ねた知識と経験、多様な専門家の協働により、万博の理念の高いレベルでの実現が期待できることが評価できる。
- ・ 総合プロデューサーやその他関係者とのコミュニケーションの円滑化を図り、展示内容の進化に柔軟に対応可能とする体制が評価できる。

イ 評価テーマに対する技術提案

- ・ CLT交差壁のシンプルなシステムにより領域を緩やかに隔てながら繋がりのある空間を生み出すことに成功しており、様々なスケールを横断する豊かな空間体験へと昇華できる可能性を十分に感じられることが評価できる。
- ・ 建設段階における端材を来場体験に活用するという具体的な工夫が評価できる。
- ・ 小さな空間から大きな空間まで様々なスケールが用意され、柔軟に展示計画に対応できるようになっている提案が評価できる。
- ・ 最新技術と古来からの技術を融合させて環境配慮を行おうとすることは的確性・独創性・実現性の点から評価できる。
- ・ リユース前提のCLTを施設全体に使用する計画はテーマに沿っており、仮設建築物としての合理性が認められる。また、会場全体における本館の役割・機能に自覚的であり、リングを考慮した環境への配慮ができていた点は評価できる。

- ・高密度な3Rに向けた実効性の高い様々な工夫のほか、デジタル技術を用いて環境技術に触れることのできる仕組みの提案など、本プロジェクトの意義を踏まえた手堅い提案であることが評価できる。
- ・構造材は再利用しやすい流通材でモジュール化し、設備はレンタル機器、仕上げ及び接合はすべて乾式工法とするなど3Rの徹底が図られていることが評価できる。
- ・設計段階と運用段階に分けた設計と条件に対する柔軟性のある提案が、的確性・独創性・実現性の点から評価できる。
- ・プログラムを用いた合理的計画による多様な空間の構築が可能な架構システムの提案や運用段階を見据えた提案であることが評価できる。
- ・CLT と鋼材を用いた構造システム、脱着可能な非構造パネルや大型軽量建具など、柔軟な空間変更への対応を可能とする提案であることが評価ができる。

② 提出者Ⅱ

ア 業務の理解度及び取り組み意欲、並びに業務の実施方針

- ・創造的に取り組む姿勢が評価できる。
- ・万博の意義を理解し、未来を創り出す体制と意欲が感じられることが評価できる。
- ・バランスよく技術者を配置し、実施方針も明快であることが評価できる。
- ・様々なプロジェクトで積み重ねた知識と経験、多様な専門家の協働により、万博の理念について高いレベルでの実現が期待できることが評価できる。

イ 評価テーマに対する技術提案

- ・空間体験から日本的なものを実現しようとしている提案の諸点は、的確性・独創性・実現性の観点から評価できる。
- ・建築も含めた循環する営みをライブで展示し、デジタルテクノロジーと呼応した箱モノにとらわれない空間づくりの提案がなされ、入館前の待合の場を行動変容につながる場と捉え、様々な融合を試みた日本館のテーマに合致した提案であることが評価できる。
- ・光が差し込む半野外空間を工作物として可動性を持たせていのちの流れを作っている独創性が評価できる。
- ・環境配慮として提案の諸点は的確性・独創性・実現性の観点から評価できる。
- ・3Rについて具体的かつ実現性の高い提案がなされており、特に循環先への提案

もなされ、環境保全への意識が高まることが期待でき、建物全体を木質化する提案で省 CO2 効果が期待できることが評価できる。

- ・協働体制をはじめ展示空間の提案や構造計画、利用計画において提案の諸点は的確性・独創性・実現性の観点から評価できる。
- ・総合プロデューサー、展示チームと三位一体の協働体制を構築し、会期中のコンテナのアップデートにも柔軟に対応する提案であることが評価できる。

③ 提出者Ⅲ

ア 業務の理解度及び取り組み意欲、並びに業務の実施方針

- ・短期間で設計をまとめるために展示設計との調整の重要性を踏まえた工程計画を立て、業務の全体像を理解していることが評価できる。
- ・バランスよく技術者を配置し、実施方針も明快であることが評価できる。
- ・展示施設に関する豊富な経験を有する設計チームと様々な専門家の協働により、万博理念の高いレベルでの実現が期待できることが評価できる。

イ 評価テーマに対する技術提案

- ・屋外展示室を中心に伽藍と自由廻廊と木組箱ユニットによる日本的空間の展開は的確性・独創性・実現性の点から評価できる。
- ・日本の伝統的な自然観や建築観をベースとしているところは評価できる。
- ・現代に紡がれる日本独自の文化を取り入れた伽藍配置による空間構成など、いのちの循環や営みを感じさせる日本館を表現する上での的確な提案であることが評価できる。
- ・環境配慮として提案の諸点は的確性・独創性・実現性の観点から評価できる。
- ・空調の必要な展示空間を必要最小限とする提案となっており、また接合部の簡易化や再利用しやすいモジュールで CLT を使うなど徹底的な合理化を図っていることが評価できる。
- ・空間自体と情報提供という2つの視点からの提案の諸点は設計と条件に対する柔軟性という点に対し、的確性・独創性・実現性の観点から評価できる。
- ・モジュールの組み合わせによる空間サイズの柔軟性に対応し、荷重や設備の供給など展示内容に対応した空間構成が可能となっている提案であることが評価できる。

④ 提出者Ⅳ

ア 業務の理解度及び取り組み意欲、並びに業務の実施方針

- ・ 初期段階からコストコントロールを行い展示設計の内容変更等に対応すべく事前に VE 項目の整理・優先順位をつける提案や周辺との連携やバーチャルによる市民参加にも配慮された提案であることが評価できる。
- ・ 取り組み体制や実施方針も十分に配慮され明快になっていることが評価できる。
- ・ コロナ影響下での実現性等、広範な課題や潜在リスクへの配慮が検討されていることが評価できる。

イ 評価テーマに対する技術提案

- ・ 建物をいのちと捉え、自然と共生し循環する思想で、小さな区画(細胞・ユニット)の組み合わせで自由に空間を構成出来るようになっていることが評価できる。
- ・ 環境配慮として提案の諸点は的確性・独創性・実現性の観点から評価できる。
- ・ CLT と集成材を融合したモジュールの展開や、基礎への CRC 利用によるカーボンニュートラル達成への技術的方策等、適材適所で建材を選択されていることが評価できる。
- ・ 木材の積極活用による環境配慮と、矩形モジュール化による組立・解体を容易にして、万博後の再利用性を高める提案であることが評価できる。
- ・ 展示設計の時期を考慮して柔軟に基本設計・実施設計を行えるよう与条件変更対応期間をあらかじめ設けた全体工程にてマネジメントしていくことが評価できる。